

総合的な学習の時間における九州歴史資料館の活用例

～ 2 単位時間の活用例～

九州歴史資料館学芸調査室
 広報普及班 朝山陽一郎

1 はじめに

各教科において、当館および当館周辺を教材化した学習プランを提案します。複数の教科が合同で当館を利用し、当館利用に要した時間数をそれぞれの教科に配分することで、それぞれの教科に教科時数として組み込むことも可能かと思われます。

教科時数をクリアしながら、学校外での体験的な学習活動の実現をお手伝いいたします。

2 来館当日の時間配分イメージ（貸し切りバス使用のケース）

時刻	活動内容			時数の配当
	生徒	教師	館職員の支援	
9:00	学校出発	引率		総合×0.5
9:30	館到着	館職員と打ち合わせ	受入、開会行事	総合×1
9:40	館内見学		館内案内	
10:20		教科①		教科①×1
11:20		教科②		教科②×1
12:10		昼食		
12:50		教科③		教科③×1
13:50		教科④		教科④×1
14:40	閉会行事		閉会行事	総合×0.5
14:50	館出発	引率		
15:20	学校帰着			

※ 1 回の来館で、総合的な学習の時間を 2 時間、教科の時間を 4 時間設定できます。

※ 同一の教科を 2 コマ連続で実施する場合、10 分間の休憩時間を割愛して、2 コマ分を 100 分で実施することもできます。

3 総合的な学習の時間における活用例（2 単位時間の活用例）

(1) 活用のねらい

- ① 九州歴史資料館そのものを実物教材として使用し、その社会的役割について考えることを通して、社会に貢献する公的施設の在り方について考える機会とする。
- ② 九州歴史資料館において、展示をする上で工夫している点を探し、その工夫の意図を考える体験活動を通して、来館者が心地よく見学を進めることができる環境づくりの工夫について考え、「働く」ことについて考える機会とする。

(2) 学習指導要領との関連

① 「内容の取り使いの改善」(指導要領解説8ページ) から

- ・ 探究的な学習としての充実
- ・ 体験活動と言語活動の充実

② 「目標の趣旨」(指導要領解説12ページから)

- ・ 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- ・ 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること
- ・ 学び方やものの考え方を身につけること
- ・ 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、共同的に取り組む態度を育てること
- ・ 自己の生き方を考えることができるようにすること

4 実践の実際(2単位時間 100分)

(1) 展開

段階	学習活動		分
	生徒の活動	教師および館職員の支援	
導入	1 本時のめあてを知る。 ・ 研修室に集合し、館職員の説明を受ける。	館：「博物館学習のしおり」を配布し、生徒に3つのミッション+おまけのミッションの説明をする。 館：めあてを提示する。 「博物館が果たしている役割をみつけよう。そして、その役割をどのようにして果たしているのかをみつけよう」 館：マナーについて念を押し、再集合の時間を示したうえで、解散する。	15
展開1	2 ミッションを遂行する。 ・ 館内を巡って、出された問いの答えを探す。	教および館：生徒の探索活動を見守り、危険な行為などがあれば制止する。	40
展開2	3 ミッションの結果を報告する。 ・ 研修室に戻る	館：ミッションの解答を発表させることを通して「館の社会的役割」「社会的役割を遂行するための工夫や努力」に気付かせる。	30
終末	4 この学習を通して気付いたことを発表する。 ・ 公共機関、教育機関としての館の任務 ・ 任務を遂行するための工夫と努力 ・ 健全な勤労観の大切さ	館：生徒の発表を広げるように、館として努力していることを当事者として話していくことで、考えること、行動することの大切さを理解させる。	15

(2) 教具

① 館が準備するもの

学習用冊子「九州歴史資料館 博物館学習のしおり」

② 学校（生徒）が準備するもの

鉛筆またはシャープペンシル（ボールペン不可）、A4サイズのクリップボード（あるいは同等の機能を果たせるもの）

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL : 0942-75-9575 FAX : 0942-75-7834
URL : <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>

<お問い合わせは>

「学芸調査室」への直通電話はこちら

TEL : 0942-75-9501

担当 園田芳雅（小学校）、朝山陽一郎（中学校）

